

平成22年度（第54回）
岩手県教育研究発表会資料

国 語

小学校国語科における知識・技能の活用を 図ることをねらいとした問題の作成

平成23年2月18日
岩手県立総合教育センター
長期研修生
所属校 奥州市立前沢小学校
青 山 武

目 次

I	研究目的	1
II	研究の方向性	1
III	研究の内容と方法	1
IV	研究結果の分析と考察	1
1	「活用問題」の作成に関する基本的な考え方	1
(1)	本県における基礎・基本の定着について	1
(2)	「活用問題」とは	1
(3)	「活用問題」を作成する意義	2
2	小学校国語科における「活用問題」の作成に関する基本的な考え方	2
(1)	小学校国語科における「活用」のとらえ	2
(2)	小学校国語科における「活用問題」とは	2
(3)	小学校国語科における「活用問題」を作成する意義	3
3	小学校国語科における「活用問題」の作成	3
(1)	小学校国語科科における「活用問題」の構成と作成上の留意点	3
(2)	小学校国語科における「活用問題」の利用に当たって	8
4	小学校国語科における「活用問題」の作成に関するまとめ	8
V	研究のまとめ	9

<おわりに>

【引用文献】

【参考文献】

I 研究目的

本県の義務教育では、「全ての児童生徒一人一人に基礎・基本の定着を実現していく」ことを目標としており、基礎・基本の定着については、論理的に物事を思考したり、表現したりすることなど、基礎的・基本的な知識・技能の習得に留まるものではないことを確認している。

この目標の実現のためには、基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を意識した授業展開を行い、授業や家庭学習においても論理的に物事を思考したり、判断したりすることをねらいとした問題に意図的に取り組ませていくことが必要である。

この研究は、小学校国語科における基礎的・基本的な知識・技能の活用を図ることをねらいとした問題（以下、「活用問題」と表記）を作成し、提示することを通して、児童生徒への基礎・基本の定着を支援しようとするものである。

II 研究の方向性

授業や家庭学習などで、基礎的・基本的な知識・技能を活用することにさらに習熟を図るため、小学校国語科における「活用問題」を作成する。

III 研究の内容と方法

- 1 「活用問題」の作成に関する基本的な考え方（文献法）
- 2 小学校国語科における「活用問題」の作成に関する基本的な考え方（文献法）
- 3 小学校国語科における「活用問題」の作成（文献法）
- 4 小学校国語科における「活用問題」の作成に関するまとめ

IV 研究結果の分析と考察

1 「活用問題」の作成に関する基本的な考え方

- (1) 本県における基礎・基本の定着について

本県の義務教育の学力向上の目標は、「全ての児童生徒一人一人に基礎・基本の定着を実現していく」ことである。

基礎・基本の定着とは、単に読み・書き・計算といった学習基盤や各教科における基礎的・基本的な知識・技能の習得に留まるものではなく、論理的に物事を思考したり、適切に判断したり、表現したりするなど習得した知識や技能を活用させることを通して、基礎・基本を身に付けさせることである。

平成20年度には岩手県教育委員会が「『活用』に関する指導資料」を作成し、平成21年度には岩手県立総合教育センターで「知識・技能の活用を図る学習活動に関する指導展開例の作成」と題して研究成果をまとめ、本県の教育課題である「活用」に関する指導の方向性を示した。

その中で、「活用」を意識した授業とは、知識・技能を活用することが目的ではなく、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、それらを活用する学習活動を手だてとして、思考力、判断力、表現力等を育成することを目的とした授業であり、基礎・基本の定着を実現するためには、知識・技能の活用を図る学習活動を意図的に位置付けた単元構想に基づいた授業実践が求められていることが示された。

(2) 「活用問題」とは

「活用問題」とは、学習指導要領を基に、知識・技能を活用して、思考力、判断力、表現力等を育むことを目的とした問題である。

そのために活用問題は、必要な情報を取り出したり、根拠をもって考えたり、自分の考えを説明したりするなどの言語活動に取り組むことができるよう構成している。

(3) 「活用問題」を作成する意義

「活用問題」は、「『活用』に関する指導資料」（岩手県教育委員会，2008）や「知識・技能の活用を図る学習活動に関する指導展開例」（岩手県立総合教育センター，2009）で示された「活用」を意識した授業を展開しながら、知識・技能の活用への習熟を図るために利用することを想定している。

児童は、授業や家庭学習などで「活用問題」に繰り返し取り組み、様々な形式の問題を解くことを通して、知識・技能を活用することに習熟していく。また問題の「正答例と解説」を通して、知識・技能を活用する手だてを確認したり、活用したりすることで確かな習得がなされる。

また教師は、児童の解答状況から、それまでの授業について「習得・活用・探究」の学習活動のバランスはどうであったか、言語活動をどのように授業に位置付けてきたかといった視点で授業実践を振り返ることによって、授業改善につなげることができる。

これらのことから「活用問題」への取り組みを通して、児童の「基礎・基本」の定着を支援することができるものであり、「活用問題」を作成することは意義があると考えられる。

2 小学校国語科における「活用問題」の作成に関する基本的な考え方

(1) 小学校国語科における「活用」のとりえ

小学校国語科では、「学校教育指導指針国語科の指導の要点（岩手県教育委員会，2009）」より作成した「知識・技能の活用を図る学習活動に関する指導展開例（岩手県立総合教育センター，2009）」に基づき、次のように「活用」をとらえている。

- (1) 既習内容を使いながら、自分の考えをまとめ表現する学習活動
- (2) 互いに考えを交流し、評価し合う学習活動
- (3) 物事を関連づけたり、整理したりしながら課題に取り組む学習活動
- (4) 様々な文章や本に接しながら、身に付けた言語能力を発揮する学習活動

(2) 小学校国語科における「活用問題」とは

小学校国語科における「活用問題」は、IV 2 (1)における「活用」のとりえを問題として具体化したものである。

3頁の【資料1】は、主に「A話すこと・聞くこと」領域の指導事項エ「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること」及び言語活動例ア「資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること」を踏まえて作成した第5学年の「活用問題」である。親子行事の様子を新聞にまとめる学習活動において、相手の意見を受けながら自分の意見を示し、助言や提案を行うという実生活の中で起こりうる場面を問題の中に設定している。

二つの意見を比べるこの問題は、活用のとりえ「(3)物事を関連づけたり、整理したりすること」を具体化している。また、必要な情報を取り出し短くまとめることで「(4)身に付けた言語能力を発揮する」ことを、意見を条件に合わせて文章に表すことで「(1)既習内容を使いながら、自分の考えをまとめ表現する」、「(2)互いに考えを交流し、評価し合う」ことを盛りこんでいる。

みが示されている場合には、児童は問題を解くために必要な情報をテキストから取り出し、解釈した上で取り組むことになる。つまり、ステップを変えることで、メモを作って情報を整理したり、図を書きながら考えをまとめたりするなど、児童は自ら順を追って思考するようになる。

このように、設問のステップに変化を付けることで、「活用問題」を通して児童が自ら思考し、基礎・基本となる言語能力を活用することに習熟できるよう問題を構成した。

イ 作成上の留意点

問題の作成に当たっては、主に以下の内容に留意した。

- ・児童が問題の内容や状況をとらえると同時に問題を解く必然性を感じ、また、日常生活の中で生きる言語能力の素地を養う機会となるよう、日常生活や国語科における学習活動の場面を設定し問題文に盛りこんだ。
- ・児童が問題の中で必要とされる言語能力に見通しをもつことができるように、問題の見出し部分に、言語活動の内容と学習指導要領の領域を明記した。
- ・児童が、基礎的、基本的な言語能力を活用し、自ら順を追って思考することができるようにするために、PISA型読解力の3観点を基にした構成で問題を作成した。
- ・児童が複数の文章や非連続型テキストを利用することに習熟できるよう、問題のテキストとしてこれらを取り入れた。
- ・児童が問題に集中して取り組むことができるよう、所要時間を10分と設定し、明記した。具体例を5～6頁の【資料2】、【資料3】及び【資料4】に示す。

【資料2】問題の作成上の留意点に関する例

The diagram illustrates a sample problem text with three key annotations:

- 問題文の場面設定 (Scene Setting in the Problem Text):** An arrow points to the text: 「国語『朗読を工夫しよう』(読むこと) 小学校第六 野口さんの学級では、来月の読書まつりで全校児童に聞かせる朗読劇を発表することになっています。題材は、宮沢賢治の『グスコップドリの伝記』です。次の『グスコップドリの伝記』をよんで、問いに答えましょう。」
- 言語活動と領域の明示 (Clarification of Language Activity and Domain):** An arrow points to the text: 「グスコップドリの伝記」あらすじ。グスコップドリの伝記は、幼いころに両親をなくした。...
- 所要時間の設定 (Target Time Setting):** An arrow points to the text: 「目標時間10分」

Below the text, there is a detailed explanation for the 'Language Activity and Domain Clarification' annotation:

言語活動もしくはその表現様式と主な関わりをもつ領域を明示した。児童には内容の見通しとして、教師には問題を選ぶ際の目安として提示した。

ウ 正答例と解説の構成と作成上の留意点

正答例と解説の構成と作成に当たっては、以下の点に留意した。

- ・正答例は、情報を取り出す問題には正答，テキストを解釈する問題には設問に応じて正答ないし正答例，熟考・評価する問題には正答例として示した。
- ・問題の中で求められている言語能力を見童が確認できるように、「この問題で身につけてほしい力」の項を設けた。
- ・解説は、表記を「考え方」として、正答に至る道筋を見童向けに平易な言葉で示した。問題で用いる表現様式について概説したり、要点を明示したりして、見童が基礎・基本となる知識・技能について習熟を図ることができるように配慮した。

具体例を以下の【資料5】に示す。

【資料5】正答例と解説の構成の例

小学校第五学年

意見伝えよう

正答例

情報を取り出す問題には正答，テキストを解釈する問題には正答ないし正答例，熟考・評価の問題には正答例として記載している。

身につけてほしい力

問題を通して求められている言語能力を、見童が確認しながら解説を読んだり、問題を振り返ったりすることができるようにするための配慮として示している。

考え方

正答にいたる道筋を見童向けの平易な言葉で示している。問題で使用される表現様式について概説したり、必要な要素を列挙したりして、見童が解説文を通して知識・技能の習熟を図るための手がかりを示している。

一 正答例

【意見A】(ぼつと見たときに、)記事の内容の大体が分かる(工夫)

【意見B】(読む人の)興味や関心を(ひと目で)引きつける(工夫)

二

見出しは「感謝のカレー」にしたらどうでしょう。何をしたのかはカレーのひと言で大体分かるし、何に感謝しているのか興味を引きつけることができます。 (七十五)

○この問題で身につけてほしい力

○友だちが書いたものよさをとらえて、考える力。

○具体的な例を出して、友だちに助言する力。

○考え方

【意見A】、【意見B】とも、学級新聞の記事の「見出しをどうするか」という内容です。両方とも「見出しを書くための工夫」を根拠に説明しています。

【意見A】で根拠になっている文は、次の通りです。

「新聞の見出しは、ぼつと見たときに、記事の内容の大体がわからなくてはいけません」

【意見B】で根拠になっている文は、次の通りです。

「新聞の見出しは、読む人の興味や関心をひと目で引きつけるようなものであるべきです」

これらをもとに、考えていけばいいでしょう。

二 二つの【条件】を解説します。

見B) それぞれのよさを受けて考えること、という次に両方の友だちに伝わるように、とよい考えを説明しても、根拠のある理由を示さなければ、見童が納得できない場合があります。聞く人にも分かりやすく理由を伝えることが大切です。また、理由に加え、「どこをどう直すのか」ということを例として示す(「代案を示す」といいます)ことで、意見はよりはっきりと伝えることができます。

このようにして自分の考えを伝えるときに、大切なことがあります。

○相手に投げかけるように伝えること。

○相手の表現したことや、考えのよさを生かして考えること。

「どうですか」「どうでしょう」と投げかけるように伝えることで、相手は出された意見を受け止めやすくなります。また、相手の表現したことや、意見を出すことで、相手は出された意見について考えやすくなります。このように、相手の立場を考えて出された意見は、「助言」として受け止められるようになります。

以上のことから、正答例は次のような組み立てになっています。

○自分の考え(結論)

○考えた理由(【意見A】を根拠に)

○考えた理由(【意見B】を根拠に)

○自分の考え(結論)

見出しは「感謝のカレー」にしたらどうでしょう。何をしたのかはカレーのひと言で大体分かるし、何に感謝しているのか興味を引きつけることができます。 (七十五)

(2) 小学校国語科における「活用問題」の利用に当たって

「活用問題」は、児童一人一人の実態に配慮しつつ、次のような学習場面で使用することを想定して作成した。

ア 家庭学習や朝自習で使用する

家庭学習や朝自習等において、単元で扱う言語活動と関連した課題、あるいは既習内容の復習のための課題として繰り返し使用する。この場合は「正答例と解説」を同時に配布し、児童による自己採点を促す。修正に際しては、解説部分を読み児童自身が解き直すことが望ましいが、児童の実態によっては正答例を視写することも許容される。この場合、教師が児童の解答を基に解説や指導を行うことで、学習効果を更に高めることができる。

このような使用を繰り返すことで、児童は次第に自らの力で「活用問題」に取り組むことができるようになり、同時に知識・技能を活用することに習熟していくことができる。

イ 単元の終了直後に使用する

単元の終了直後に、教師が知識・技能が児童に習得されているか確かめるために使用する。同じ領域や言語活動から「活用問題」を選ぶことで、児童は直前まで行われていた単元の学習で習得した知識・技能を活用することになる。この場面における「活用問題」への取り組みの様子や解答の内容は、教師が児童の習得の状況を判断する材料として使用することができる。また、習得の状況を基に、児童の活用することへの習熟を図るために使用することができる。

ウ 予習で使用する

予習で「活用問題」に取り組ませることで、習得すべき知識・技能を意識化し、単元における言語活動に児童が見通しをもって取り組むために使用することができる。単元の学習が行われる前、あるいは学習計画を立てる段階で「活用問題」に取り組むことにより、授業の中で行われる言語活動やその表現様式に対して児童は見通しをもつことができる。このように習得すべき知識・技能を意識化した上で学習に取り組むことで、児童の学習意欲を喚起し、知識・技能の習得と活用を行う学習活動を支援することができる。

エ 授業場面で使用する

単元の学習に「活用問題」を補助的な教材として組み入れることができる。

比べ読みをするための補助教材として使うことで児童の言語活動を支援したり、児童の習得が不十分だと判断される内容を支援したりするために使用することができる。

4 小学校国語科における「活用問題」の作成に関するまとめ

小学校国語科における「活用問題」の作成について、以下のようにまとめる。

- ・小学校国語科における「活用問題」を「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C話すこと」の3領域において作成することができた。「活用問題」を解いた児童から得られた感想として、「活用問題」の難易度の高さを指摘するものがあった。一方で問題に対する関心は高く、意欲的に取り組んでいた。また、児童向けに作成した正答例と解説を読み、理解したり、別の問題や同じ問題を解いてみたいという知的な好奇心が喚起されたりすることも示していた。このことから、児童が知識、技能を活用し基礎的、基本的な言語能力の定着を支援するものとして「活用問題」は使用し得るものであると考える。
- ・「情報の取り出し」、「テキストの解釈」、「熟考・評価」の、設問のステップに変化をつけたことで、基礎・基本となる知識・技能を児童が自ら身に付けることができるよう問題を構成した。

このように、「活用問題」の作成を通して小学校国語科の言語活動における児童の思考の流れを確かめ、問題に反映させることができた。

- ・生活場面や学習場面を問題文の場面設定に取り入れたり、複数の文章や非連続型テキストを問題に取り入れたり、使用場面に配慮したりしたことで、児童が必然性を感じながら取り組む「活用問題」を作成することができた。

V 研究のまとめ

本研究の目的は、児童への基礎・基本の定着を支援するために、言語活動を拠り所とし、情報を要約したり、考えを説明したり、論述したりすることを中心に構成した基礎的・基本的な知識・技能の活用を図ることをねらいとした問題を作成し、提示することであった。

研究を通して、小学校国語科における「活用」のとらえに沿って「活用問題」を作成することができた。

以下に、「活用問題」の利用によって得られる効果について述べ、研究のまとめとする。

- 児童が、授業や家庭学習などで「活用問題」に取り組むことにより、知識・技能を活用することに習熟し、思考力、判断力、表現力等が育成されること。
- 教師が、児童の「活用問題」への取組の様子から、基礎的・基本的な知識・技能の習得状況や思考力、判断力、表現力等の育成状況を把握し、授業及び家庭学習等の改善及び支援を行うことができること。

〈おわりに〉

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました先生方、児童の皆さんに心からお礼を申し上げます。

【引用文献】

岩手県立総合教育センター（2009）、『知識・技能の活用を図る学習活動に関する指導展開例』

【参考文献】

- 井上一郎（2010）、『新学習指導要領対応小学校国語科 言語活動例を生かした授業展開プラン 高学年』、明治図書
- 井上一郎（2009）、『知識・技能を活用した言語活動の展開』、明治図書
- 岩手県教育委員会（2009）、『学校教育指導指針国語科の指導の要点』
- 岩手県教育委員会（2008）、『「活用」に関する指導資料』
- 光野公司郎（2009）、『「活用・探究型授業」を支える論証能力』、明治図書
- 白石範孝（2009）、『活用力の基礎を育む授業ベーシック 必備！国語の定番授業 小学校6年』、学事出版
- 全国国語授業研究会 二瓶弘行 青木伸生（2008）、『活用力を育てる 文学の授業 ―この教材をこの発問・板書で教える』、東洋館出版社
- 全国国語授業研究会 白石範孝 桂 聖（2008）、『活用力を育てる 説明文の授業 ―この教材をこの発問・板書で教える』、東洋館出版社
- 文部科学省（2006）、『読解力向上に関する指導資料 ～PISA調査（読解力）の結果分析と改善の方向～』、東洋館出版社